

成立後も「説明不十分」8割

民主主義を否定した希代の悪法

シリーズ 廃止しかない戦争法

「民主主義って何だ」「これだ」。国会を包囲し、全国各地で集会を開いた「SEALDs」(シールズ)「自由と民主主義のため」の学生緊急行動)の若者たちに代表される国民コールは、憲法で定めた国民主権と民主主義の原則を体現したものでした。

権力を縛り国民を守る憲法を、時の政権が国民の声を聞かず勝手に覆して「海外で戦争をする国」につくり変える。戦争法は、平和主義、立憲主義の根柢ごとく、民主主義を裏切りながら否定する。戦後最悪の悪法です。

民意との隔たり
安倍晋三首相は戦争法について「成立し、時を経ていく中で間違いなく理解は広がる」「(14日の参院安保法制特別委員会)と緊密にしました。しかし実際は

「民主主義って何だ」「これだ」。国会を包囲し、全国各地で集会を開いた「SEALDs」(シールズ)「自由と民主主義のため」の学生緊急行動)の若者たちに代表される国民コールは、憲法で定めた国民主権と民主主義の原則を体現したものでした。

権力を縛り国民を守る憲法を、時の政権が国民の声を聞かず勝手に覆して「海外で戦争をする国」につくり変える。戦争法は、平和主義、立憲主義の根柢ごとく、民主主義を裏切りながら否定する。戦後最悪の悪法です。

民意との隔たり
安倍晋三首相は戦争法について「成立し、時を経ていく中で間違いなく理解は広がる」「(14日の参院安保法制特別委員会)と緊密にしました。しかし実際は

「民主主義って何だ」「これだ」。国会を包囲し、全国各地で集会を開いた「SEALDs」(シールズ)「自由と民主主義のため」の学生緊急行動)の若者たちに代表される国民コールは、憲法で定めた国民主権と民主主義の原則を体現したものでした。

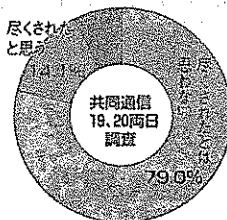
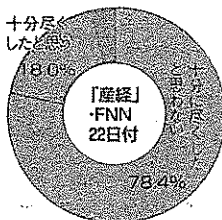
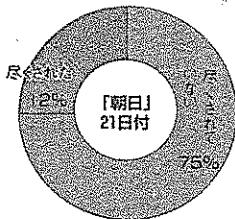
権力を縛り国民を守る憲法を、時の政権が国民の声を聞かず勝手に覆して「海外で戦争をする国」につくり変える。戦争法は、平和主義、立憲主義の根柢ごとく、民主主義を裏切りながら否定する。戦後最悪の悪法です。

民意との隔たり
安倍晋三首相は戦争法について「成立し、時を経ていく中で間違いなく理解は広がる」「(14日の参院安保法制特別委員会)と緊密にしました。しかし実際は

審議の一方的打ち切りなど論外

- 参院での戦争法案の強行採決をめぐる主な動き
- 9月14日 国会正門前で「強行採決反対」「廃案」を訴え4万5000人の大集会
 - 15日 参院安保法制特別委員会の中央公聴会
与党、地方公聴会後の締めくくり質疑を提案
 - 16日 参院特別委の地方公聴会(横浜市)
 - 17日 鴻池祥輝特別委員長、法案の質疑終局を職権で決定
与党、野党提出の鴻池特別委員長の不信任動議を否決
与党、参院特別委で法案を強行採決
中川雅治参院議院運営委員長が本会議開議を職権で決定
与党、参院本会議で中川委員長の解任決議案を否決
 - 18日 与党、参院本会議で中谷元・防衛相問責決議案、山崎正昭参院議長の不信任決議案、安倍首相問責決議案、鴻池特別委員長の問責決議案をそれぞれ否決。衆院本会議では安倍内閣不信任決議案を否決
 - 19日 与党などの賛成多数で参院本会議で法案が強行成立
日本共産党の志位和夫委員長が『戦争法(安保法制)廃止の国民連合政府』の実現をよびかけます』を発表

戦争法(安保法)の審議は尽くされたのか?



「特別委で締めくくり総括質疑を行い審議を終える」という乱雑な提案を行いました。公聴会は広く国民の意見を聞き、その後の審議に反映させるために行うもの。審議の打ち切りなど論外です。現に公聴会では「この国民の意見を聞いてください」(シールズのちに特別委で締めくくり総括質疑を行い審議を終える」という乱雑な提案を行いました。公聴会は広く国民の意見を聞き、その後の審議に反映させるために行うもの。審議の打ち切りなど論外です。現に公聴会では「この国民の意見を聞いてください」(シールズの

奥田愛基さん、「公聴会終了後、ただちに強行採決するなら、まさに参院の良識が問われる」(広渡清吾・前日本学術会議会長)との発言が相次ぎました。

日本共産党など野党の強反対で与党は地方公聴会直後の締めくくり総括質疑はできなくなりましたが、17日にはその質疑もやらず、特別委で強力的な手法で戦争法案を強行採決しました。この混乱の中で特別委では地方公聴会の報告も行われず、公述内容が議事録に反映して

「虚構の多数」で
与党の多数議席は、いまの民意を反映していません。

「虚構の多数」に
奥田愛基さん、「公聴会終了後、ただちに強行採決するなら、まさに参院の良識が問われる」(広渡清吾・前日本学術会議会長)との発言が相次ぎました。

日本共産党など野党の強反対で与党は地方公聴会直後の締めくくり総括質疑はできなくなりましたが、17日にはその質疑もやらず、特別委で強力的な手法で戦争法案を強行採決しました。この混乱の中で特別委では地方公聴会の報告も行われず、公述内容が議事録に反映して

「虚構の多数」で
与党の多数議席は、いまの民意を反映していません。

「虚構の多数」に